

2005年4月28日(木曜日)

日刊建設工業新聞

土壤汚染調査

高性能サンプル機普及へ

東亜利根ボーリングなど 25社参加で協会

東亜利根ボーリングからボーリング会社など25社で構成する「エコアプローブ協会」(会長・遠藤計光洋土質調査社長)が発足した。このほど第1回総会を開いた。土壌汚染調査での精度の高い試料(土壌サンプル)抽出が

が伸びており、レンタル機の要望も高まっている。そのため同社では、エコアプローブを使って土壌汚染調査業務を行うボーリング会社などが結集した協会を設立。工法の普及に向けた活動を展開していくことにした。

協会では、土壌の安全性に対する関心が一層高まることとみ、エコアプローブの普及に向け会員企業のさらなる増員も図っていく計画だ。

低騒音で行えるエコアプローブ工法の普及と、技術者の育成などを中心に事業活動を展開する。6月に協会のホームページ(HP)を立ち上げ、広く工法の周知を図るとともに、9月には会員社を対象に技術講習会を開

き、技術レベルの底上げを図ることとしている。「エコアプローブ」は、土壌汚染調査に要求される土壌サンプルの精度の高さと静粛性が特徴。低速回転軸と高周波パイプロを組み合わせたことで、打撃式よりも静かで、回転式よりも早くサンプルが行えるという。サンプルル土壌の発熱も抑えられるので、調査の品質も確保できる。

00年に販売を開始して以降、順調に販売台数



エコアプローブ本体外観

- (埼玉県桶川市)、埼玉地質コーポレーション(埼玉県鴻巣市)、彰地下テクノ(埼玉県三芳町)、ジオ・フロント(東京都墨田区)、城東地質(東京都江戸川区)、伸光エンジニアリング(千葉市)、総研基礎(埼玉県東松山市)、創和(神奈川県相模原市)、大成投建(愛媛県松山市)、地質環境エンジニアリング(東京都千代田区)、東亜利根ボーリング(東京都港区)、東邦地水(三重県四日市市)、中村ボーリング(川崎市)、野田サクセン(栃木県大平町)、萩原ボーリング(山梨県甲府市)、福島地下開発(福島県郡山市)、藤永地建(長崎県佐世保市)、北東地質ボーリング(岩手県西根町)、三坂ボーリング(埼玉県北川辺町)、細野建設(長野県小谷村)、横浜技研(横浜市)。